

<ホタルの季節>ビオトープといえばホタルの舞う姿を見たいですね。クラブ棟の前の小さな流れはホタル川という名前が付いていてずいぶん前からカワニナ(ゲンジボタルの餌)が沢山棲んでいます。その下流にビオトープがあります。ビオトープを建設するときこの川もホタルの幼虫が蛹になりやすいように、そしてホタルが産卵しやすいように整備されました。そこに一昨年と昨年、ゲンジボタルの孵化したての幼虫が数百匹

放流されました。その甲斐あって昨年は30頭ほど、今年は5月下旬から毎夜数頭が黄緑色の光を明滅させています。もう少し夜間の暗い環境にするともっと沢山ホタルが育ちそうです。モノアラガイも棲んでいますのでヘイケボタルも期待できそうです。



<ビオトープ(右)のゲンジボタル: 木内好信氏撮影>

<道端の星くず>夜はホタルの舞うあたりの小径の端には1cmにも満たない黄色い先の尖った5弁の花が星くずを散りばめたように咲いています。コモチマンネングサです。前回、かわいそうな名前の植物について少し触れましたが、今回のものは何となくほのぼのとした気分になりませんか。“コモチ”はむかごで殖えるため、“マンネン”は多年草で強いからでしょうね。

<むかご> いぶし銀のような色をした1cmほどの丸いものがヤマイモの葉の付け根にぼつぼつと付いているのを見たことはありませんか。それが最もよく知られたむかごで、晩秋には“むかご飯”として食べます。むかごは植物の栄養繁殖器官のひとつで、葉っぱや茎から落ちてそのまま根を出し成長します。ユリの葉の付け根に着くのも目立ちます。



<コモチマンネングサ>

<田植え時> “コモチ”からのふとした連想がメダカです。春先にお腹が膨らんでいたなあと。今、池には卵から孵って間もない子供のメダカが元気よく泳いでいます。春の田植え時、メダカは用水の流れに乗って田圃に入り繁殖したようです。しかし用水路の整備とともに田圃に入りにくくなり、今では絶滅危惧種になってしまいました。ヒシも一昔前は溜め池いっぱい広がっていたのが夏景色の一つでしたが、今やあまり見られません。

<ウツギのリレー>SHCにはいろんなウツギが春先から咲いていました。それぞれのウツギには花を咲かせる時期の違いがあるようです。以前にコゴメウツギを紹介しましたが、今回はシロバナヤエウツギの優雅さと華やかさを秘めた花です。♪卵(ウツギ)の花のにおう垣根にホトトギス早やも来鳴きて♪ はこのウツギでしょうか。



<メダカとヒシ>



<シロバナサラサウツギ>

(文と写真: 松本正勝)